

日本磁気共鳴医学会標準化プロジェクト②  
脳梗塞における MRI 検査の標準化に関する研究  
平成 18 年度第一回全体会議 議事録

日時： 2006 年 11 月 4 日 11 時～12 時 30 分

場所： 経団連会館 9F 901 号室

出席者：五十嵐博中(代理: 五十川瑞穂)、井田正博、伊藤俊英(代理: Nielsen, Matthew)、大西貴弘、尾澤芳和、樺沢宏之、木村徳典、工藤與亮、興梠征典、近藤康洋、佐々木真理、佐瀬茂、七戸金吾、杉本博、鈴木由里子、田岡俊昭、高野浩一、竹内博幸、伊達信忠(代理: 今杉祐介)、傳法昌幸、永井博之、原田雅史、林英昭、平井俊範、百島祐貴、山田恵  
(五十音順、敬称略)

### 1. 理事会での中間報告の結果

佐々木より、9 月 13 日に行われた日本磁気共鳴医学会理事会での中間報告の結果について説明があった。医師分科会による実践ガイドラインの策定、企業分科会による標準化手法の搭載、脳ドック分科会による脳ドックガイドラインの改定など種々の成果について報告し、理事会で高い評価を得たことが報告された。

### 2. 医師分科会報告

興梠先生より CT/MR 灌流画像実践ガイドライン 2006 日本語版/英語版の策定が終了し既に web 公開中であることが報告された。本ガイドラインを下敷きに包括的な実践ガイドラインの策定が進行中であり、来春公開を予定していることが示された。また、佐々木より本ガイドラインが現在企画中の臨床試験に採用されることが既に決定していることが報告された。

### 3. 企業分科会報告

百島先生より 7 月 1 日に行われた企業分科会会議について報告があった。拡散強調画像の表示条件の標準化手法、灌流強調画像の解析アルゴリズム・表示条件の標準化手法が多くソフトウェアに実装・実装予定となっていることが示された。今後の MRI を用いた多施設研究や治験に備え、標準化手法の実装を更に推進して頂くこととした。

### 4. 脳ドック分科会報告

井田先生より、脳ドックガイドライン改定に向けた、無症候性脳梗塞と白質病変の判定基準の提唱、FLAIR 至適撮像条件の検討、ガイドライン改定案の策定などの成果について報告があった。今後、日本磁気共鳴学会、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会などの関連プロジェクトと連携をとりながら作業を進めていくこととした。

### 5. その他

井田先生より低髄圧症候群(脳脊髄液減少症)の MRI 所見の誤認による過剰診療が問題となって

おり、MRI 撮像法や判定法の標準化が急務であることが報告された。本プロジェクトの範疇を超えるものの緊急性が高いため、学会長や理事会に諮った上で、本プロジェクト内で取り急ぎ検討していくこととした。

本プロジェクトは本年度で終了するが、脳ドック・慢性期脳梗塞・脳出血など MRI 検査の標準化に関する課題が山積しているため、来年度も何らかの形でプロジェクト申請を行って活動を続けていくことが佐々木より提案され、了承された。

最後に、参加者全員よりご意見やコメントを頂戴した。

—散会—

(文責 佐々木)